

2025年1月吉日

株式会社シード・プランニング

製薬企業におけるデジタルヘルス事例・RWD 利活用市場における実態を調査
デジタルヘルス事例 272 件の傾向と分析
～国内における製薬企業の取組みとリアルワールドデータ利活用の動向～



株式会社シード・プランニング（本社：東京都文京区 梅田佳夫社長、以下シード・プランニング）は、国内を対象に、製薬企業におけるデジタルヘルス事例及び RWD（リアルワールドデータ）利活用市場における現状と事業者の実態について調査を実施し、その結果を公開したことをお知らせいたします。

●調査の詳細はこちら

<https://www.seedplanning.co.jp/news/5865/>

◆調査の背景と目的

コロナ禍以降、人々の行動様式・生活様式が大きく変化を与え、医療等の DX 化が加速しています。政府は「医療・介護 DX」の基本方針等につき、「医療データの活用と医療イノベーションの促進による医療・介護 DX」の推進が謳われる中で、電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定 DX、PHR の整備・普及といった全国医療情報プラットフォームの構築が加速するなど、DX 化と医療データの利活用の基盤づくりが進められています。

このような時勢の中、製薬企業各社では、創薬分野から臨床開発・試験、治療・服薬支援、製造 DX などあら

ゆる場面でのデジタル化や、デジタル技術を活用した新たなモダリティ開発への取組みを加速しています。リアルワールドデータ（RWD）の利活用事例も製薬企業各社では増えつつあり、医薬品の開発や臨床試験の効率化、医薬品の安全性・有効性証明、基礎研究場面での疾患理解の向上など、こちらも様々な場面で活用が進んでいます。

本調査は、製薬企業各社のデジタルヘルス事例 272 件を取りまとめて分析した「2022 年版 製薬企業のデジタルヘルス戦略」（2022 年 1 月発刊）の更新版として、2021 年 11 月～2024 年 9 月頃までの製薬企業各社の取組みを新たに収集し、変遷と最新動向を取り纏めるとともに、製薬市場におけるデジタルヘルスの方向性を展望することを目的として調査しました。

◆調査トピックス

- 国内を対象にデジタルヘルスに取組む内資系・外資製薬企業の実態を調査し、2018 年に開始した第 1 回調査からの取組みの変遷を俯瞰。
- デジタルヘルス事例 272 件を 8 つに分類・傾向を分析。
- 製薬企業担当者へのアンケート調査から、RWD 利活用の実態を把握。
- RWD 利活用を支援する民間事業者の、ビジネス展開を整理。
- デジタルヘルス事例は「治療・服薬支援」での取組みが最多。
- デジタルヘルスで使われる技術は「Web/アプリ」が最多。

◆製薬企業のデジタルヘルスの動向について

- 領域別では、「治療・服薬支援」（診断支援や副作用マネジメント等含む）の取組みが 83 件で最多

シード・プランニングでは 2018 年より国内のデジタルヘルスに取組む内資系・外資製薬企業の実態を調査し、今回で 3 回目の発表となります。

デジタルヘルス事例 272 件を、「創薬・研究」、「臨床開発・試験」、「治療・服薬支援」、「予防・健康」、「業務効率化・人材育成」、「製造 DX」、「疾患啓発・情報提供」、「その他」の 8 領域に分類し、傾向を分析しました。

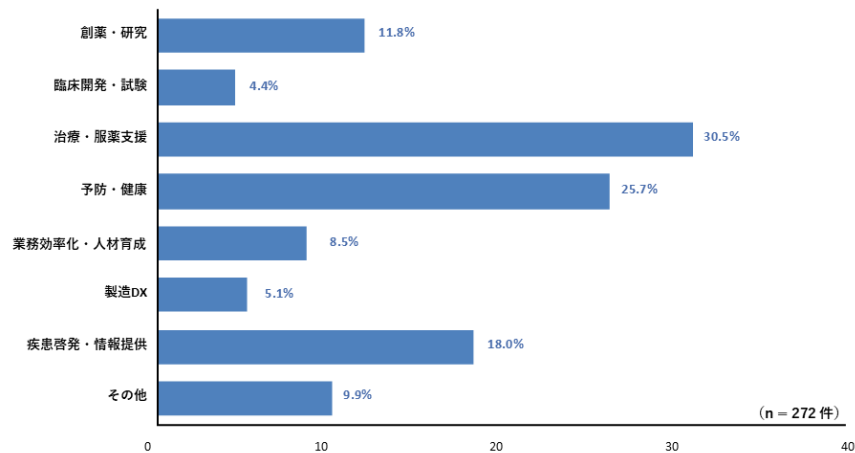
※1 つの事例を複数の領域に分類しているケースがあります。

領域別では、「治療・服薬支援」（診断支援や副作用マネジメント等含む）の取組みが 83 件で最多となり、次いで「予防・健康」が 70 件と続きます。それぞれの取組みについて、内資系企業と外資系企業の割合をみると、内資系企業は「予防・健康」や「治療・服薬支援」への取組みが 3 割前後で多くなり、患者だけでなく、地域住民の健康づくりを支援する自治体との連携協定や、認知症予防など認知機能に着目した取組み、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防など、広く一般の人に向けた活動が散見されました。

※画像は一部抜粋。

2025年版 製薬企業のデジタルヘルス戦略

製薬企業の領域別デジタルヘルス事例 (%)



シード・プランニング調べ

●デジタルヘルスで主に使われる技術は、「Web/アプリ」が167件で全体の6割以上を占めて最多

支援技術が明確なデジタルヘルス事例 270 件を、技術別に「Web/アプリ」、「ウェアラブル」、「デバイス・AR/VR」、「人工知能」、「その他」に分類し、傾向を分析しました。

デジタルヘルスで主に使われる技術は、「Web/アプリ」が167件で全体の6割以上を占めて最多となり、次いで「人工知能」が73件で約3割と続きます。「人工知能」を活用した取組みでは、AI技術を有する海外企業との連携・提携が活況で、特定疾患を対象とした活用もみられますが、多くは複数疾患や新たな治療標的の探索事例となりました。

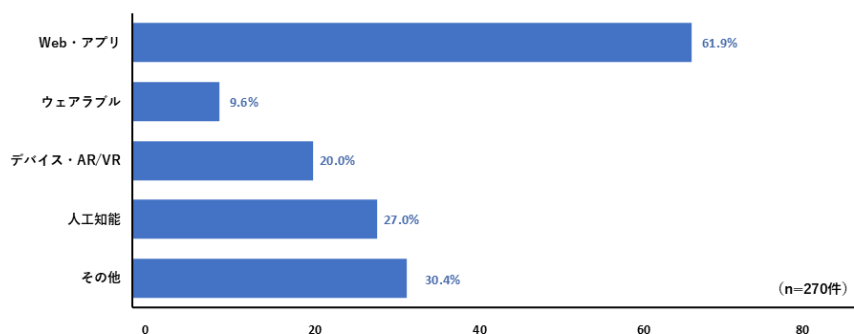
また、生成AIの活用やオートメーションラボ、スマート工場など、業務効率化や次世代の製造DXを見据えた取組みも複数みられました。

内資系企業と外資系企業の支援対象者割合をみると、いずれも「Web/アプリ」の事例が最多となりますが、内資系企業56.1%に対して外資系企業の事例は77.8%となり、20ポイントほど上回っています。

※画像は一部抜粋。

2025年版 製薬企業のデジタルヘルス戦略

製薬企業のデジタル技術別デジタルヘルス事例 (%)



シード・プランニング調べ

◆調査概要

調査対象：

国内大手製薬企業（11社）、内資系製薬企業（9社）、外資系製薬企業（日本法人）（11社）
RWD利活用を支援する主な事業者（8社）

調査方法：

ヒアリング調査（RWD事業者）、アンケート調査（製薬企業）、公開情報・文献調査、既存情報整理

調査項目：

- ・製薬企業

企業概要/医薬品売上高上位品目/注力領域/デジタルヘルスの取組み事例

【アンケート調査（RWD利活用経験がある製薬企業の各担当者）】

利用実績があるRWD/利用実績があるデータ種類/国内RWDの活用方向性/海外RWDの利活用と活用方向性/次世代医療基盤法について/RWDの年間費用と今後の予算の方向性

- ・RWD利活用支援事業者

企業概要/近年の動向/事業概要（サービス概要、特長・強み）/データ種類・活用領域（データ種類、集積基盤、支援領域、提携事業者、連携DB、提供範囲等）/事業動向（顧客動向、事業課題と今後の事業方向性）

※公開情報調査企業は、企業概要/事業概要/データ種類・活用領域（データ種類、集積基盤、提供範囲）を記載

調査期間：

2024年4月～2024年9月

本調査の詳細はこちら：

<https://www.seedplanning.co.jp/news/5865/>

資料についてのお問い合わせ：

広報宣伝部

E-mail：koho@seedplanning.co.jp